

令和元年度 第1回登別市地域公共交通活性化協議会 議事録

●開催概要

日 時 令和2年1月23日(木) 13:30～

場 所 登別市民会館2階小会議室

出席者 別紙のとおり

●議事内容

1. 開会

【司会】

ただいまから、第1回登別市地域公共交通活性化協議会を開催いたします。

初めに登別市地域公共交通活性化協議会委員の委嘱状を交付いたします。委員の構成につきましては、公共交通事業者と業界の労働組合から5人、道路管理者から2人、交通関係行政から3人、学識経験者から1人、市民及び利用者から4人、市の職員から2人、合計17人の構成としております。

委嘱期間は、本日から令和3年3月31日までとなります。

2. 委嘱状・辞令書交付

【副市長】

(委嘱状・辞令書交付)

3. あいさつ

【副市長】

本日お集まりの皆様におかれましては、日ごろより当市の交通行政をはじめ、市政全般に対し、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。ただいま委嘱状をお渡しいたしましたけれども、業務等で大変お忙しい中、本協議会の委員就任を快くご承諾くださいましたことを重ねて御礼申し上げます。当市における公共交通を取り巻く環境については、ほかの自治体と同様に、高齢化の進展や運転免許証の自主返納者の増加など、特に交通弱者などと呼ばれる市民にとっても、買い物・通院などの日常生活における移動の確保が、今後の大きな課題と捉えているところでございます。

このことに加えまして、公共交通を提供する側の事業者様におかれましても、利用者数の伸び悩み、あるいは昨年末には運転手不足によるバス路線の減便など、利用側・提供側の双方を取り巻く環境が年々厳しくなっているものと認識しております。

このままの状況では当市における公共交通体系の維持にも、影響が出る恐れが考えられることから、公共交通に関係する皆様にお集まりをいただき、当市が抱える公共交通に関する様々な課題を協議する場として、登別市地域公共交通活性化協議会を設置するに至ったところでございます。

委員の皆様をはじめ、各方面からのお知恵をお借りしながら、諸課題の解決に向けて取り組み、持続可能な公共交通の体系を構築していきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

4. 協議会設立の経緯について

【事務局】

(資料：登別市地域公共交通活性化協議会設立の経緯)

※説明の概要

- ・「人口減少、高齢化の進展」、「自家用車に依存する生活環境」、「バス・タクシー運転手のなりて不足」、「外国人観光客への対応」など、公共交通に関する課題の解決に向けた取組が必要
- ・将来を見据えた公共交通のあり方を協議する会議体が必要となった。
- ・設置する協議会では、公共交通に関する課題の解消に向け協議を実施するほか、公共交通に関する計画の策定を目指す。

5. 登別市地域公共交通活性化協議会設置要綱について

【事務局】

(資料：設置要綱説明)

6. 会長・副会長の選任について

【司会】

(会長の選任について)

※会長は登別市市民生活部 梅田秀人部長で全会一致

※副会長は室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域 社会基盤ユニット

有村幹治准教授で全会一致

(会長挨拶)

ただいま会長に選任されました、市民生活部長の梅田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
副市長の挨拶の中にもありましたが、本市における公共交通を取り巻く環境につきましては、他の自治体と同様に高齢化の進展や運転免許証の返納者の増加など、交通弱者といわれる方々の増加による日常生活における移動確保など、今後ますます大きな課題が増えていくと考えています。

このような状況となっておりますことから、各方面皆様方のお力と忌憚のないご意見をいただきながら、課題解決に取り組んで参りたいと考えておりますので、皆様方のご協力どうぞよろしくお願いいたします。

7. 議事

(1) 協議会規約の承認について

【事務局】

(資料：登別市地域公共交通活性化協議会規約(案))

※全会一致で規約(案)を承認

(2) 地域公共交通に関する課題整理について

(3) 市民アンケートの実施について

【事務局】

（資料：「登別市の公共交通に関する課題」、「市民アンケート」）

【会長】

登別市の公共交通に関する課題についてと市民アンケートについて事務局よりございました。お気づきの点やご質問等あればお願いいたします。

【委員A】

課題整理のNo6、公共交通空白地域とありますが、具体的な定義はあるのでしょうか。

【事務局】

一般的にはバス停から300m、JRの駅であれば1kmの範囲外である地域を公共交通空白地域と言われております。

【委員A】

もう一点、柏木町と登別本町ということですが、この地域は過去にバス路線が走っていたかどうかというのは、ご存知でしたらお願いします。

【委員B】

平成の初めころに登別の駅と柏木地域、常盤地域の間を運行する路線がございました。当時は比較的若い世代の方が多かったと思われまますので、利用状況はあまりなかったということです。

登別本町地域のバス路線は、私の記憶する限り運行した実績はございません。

【委員A】

アンケート調査を行うということですが、ほかの自治体でも同様な項目を質問されていてそれをベースにしているのか、コンサルさんからアドバイスを受けて作られたものなのでしょうか。

【事務局】

今回の内容については、コンサルタントさんのアドバイスを受けて作っております。

内容についても他の自治体でやっているようなものをベースに作っている状況です。

【事務局】

空白地域については、国が明確に定めたものではなく、国の見解としてバス停と鉄道の駅から何百メートル、もしくは何キロメートルというのを、都市部と都市部以外でおおよその目安を示しています。具体的な数字は手元にないのですが、それをもとにそれぞれの協議会の中で「地域の実情を考えたならこのぐらいが空白地域と言える地域ですね」というような設定の仕方をしているので、登別市においてもそういう形になり得るかと考えております。

もう一つ、アンケートですが、ウポポイの部分が登別の特徴を示していると思っています。

観光地をウポポイと繋いで、札幌や空港と繋ぐ、というような一体的な地域として観光客の域内移動なのか、域外移動なのか、そういったことも観光地として、要素を取り入れたいと思い、設問を設定した特徴があります。

【会長】

ただいま事務局からも説明がありましたけれども、今後この協議会の中で登別市における公共交通の空白地域の定義を定めていかなければならないということでございます。

そのほかご質問よろしいでしょうか。アンケートの結果につきましては、今後報告させていただくということでございます。

(4) その他

【会長】

それでは次の議事に入らせていただきたいと思います。「その他」でございますが、各委員のほうから、議事となる案件はございますか。

【委員C】

先ほどの、登別市地域公共交通に関する課題整理の最後に、実証実験運行の実施が今年度の事業内容に書かれているのですが、これは具体的にはどのような実験運行を行うのでしょうか。

【事務局】

こちらについては3月上旬を目処に、登別駅周辺で生活道路を走らせたり、観光客を誘導するような実証実験運行を実施したいと考えております。

ルートや使用車両については検討中です。実施する際、観光地については、アイヌの史跡を巡るような経路を考えております。今のところ3月中には登別駅周辺で、期間は2週間程度実施できればと考えております。

【委員C】

アンケート調査の結果を受けてから決めるわけではなくて、駅周辺と既に決めているように聞こえたのですが、交通空白地域は出ているけど、その地域を走らせるという事は現状では考えていないのでしょうか。

【事務局】

市内には柏木町や常盤町も公共交通機関が近くにない地域になるので、今後、実証実験運行をしてみてもどうかという話もあります。

そちらの地域についてもやり方を検討して実施できればと考えております。

【委員C】

登別駅周辺を走らせる目的がよくわからないのですが、その辺は駅までのアクセスは良いわけですし、道南バスさんのバス停もあってカバーされていますよね。

買い物支援とか通院支援とかいろいろ方法はあるかと思いますが、あえて駅周辺で行うという目的がわからないです。

【事務局】

確かにアンケート調査の結果を見てからという方が通常のやり方かとは思いますが、実はアンケートには付け加えましたウポポイ関連の事業が今年度から始まっており、銀のしずく記念館など、路線バスが走っていないところを走らせてその状況を確認するという意味もあります。

さらに、駅前では都市計画変更の関係でバスの待合所を拡大することや、駅に来られたお客様が温泉等の情報を得るための施設を建設するという計画も構想としてありますので、その前段の作業として、実証実験を実施することで検討しております。

柏木町など、その他の地域も必要であれば次年度以降にやりましょうという計画をしております。

【委員C】

ウポポイと連動した2次交通整備と登別駅前の情報発信も含めた整備を考える上での実証実験を行うというのが分かりました。

ただ、実証実験やるならば、観光客の方々に施設を訪れて満足度が上がっているかなどの簡単な調査を行わないと、実証実験の結果としてうまくいったのかわからなくなりますので、3月にやるのであるならばそれも併せてやってください。

【会長】

実証実験を行うというところで、その実証実験の結果・効果をしっかりと検証するということで進めてまいりたいと思います。

その他、各委員さんから何かございますか。

それでは事務局からお願いします。

【事務局】

先ほど説明をさせていただきましたが、今後のスケジュールについて説明いたします。今年度につきましては、先ほどの説明の通り、公共交通に関するアンケートを実施させていただくほか、3月に実証実験運行を実施する予定です。

来年度以降についてですが、地域公共交通に関する計画の策定について取り組んでいきたいと考えております。

来年度の動きについても随時情報提供をしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【会長】

それでは質問等もないようですので、その他につきましてはこれで終了したいと思います。

8. 情報提供

【会長】

次に情報提供についてでございますが、本協議会委員であります国土交通省北海道運輸局室蘭運輸支局野坂首席運輸専門官より「地域公共交通計画について」と「地域公共交通について活発でよい議論ができる会議のために」ということで資料提供をいただいております。

野坂委員、説明をよろしくお願いいたします。

【野坂委員】

(資料：「地域公共交通計画について」、「地域公共交通について活発でよい議論ができる会議のために」)

※情報提供の概要

- ・全国で538、道内では32の団体が「地域公共交通網形成計画」を策定している（令和元年12月末時点）。
- ・「地域公共交通網形成計画」は、「地域公共交通計画」に改称する予定。
- ・「地域公共交通計画」の策定は、努力義務になる見通し。
- ・地域公共交通に関する協議会では、これからの地域公共交通を維持するために、参加者全員が主体者となって取り組む必要がある。

【会長】

ただいまの情報頂いた内容について、なにか確認や質問等ございますか。

【委員A】

説明いただきましてありがとうございます。

地域内フィーダー系補助のイメージというところですが、登別市ではすでに該当してこの補助をもらっているということはあるのでしょうか。

今後補助対象の可能性のある路線はあるのでしょうか。

【野坂委員】

登別市では現時点で補助対象系統はありません。

今後、計画を策定していただいて該当するような系統が出てきた場合には、当然申請が必要になりますが、国に申請していただいて、該当すれば補助という流れになります。

【委員A】

前提条件としては計画があるということでしょうか。

【野坂委員】

そうです。

【委員A】

分かりました。ありがとうございます。

【会長】

そのほかご質問はないようですので、以上で情報提供を終わらせていただきます。改めまして野坂様ありがとうございました。

9. 閉会

以上で本日の協議会の次第につきましては、すべて終了いたします。本日の会議全体を通しまして、何か各委員からご質問等あればお願いしたいと思います。

それでは質問はないようですので、以上で令和元年度第1回登別市地域公共交通活性化協議会終了させていただきます。本日はお忙しい中誠にありがとうございました。

以上